

論文審査の結果の要旨

博士の専攻分野の名称	博士（看護学）	氏名	吉松 恵子
学位授与の条件	学位規則第4条第1・2項該当		
論文題目 Development of a scale measuring home-visiting nurses' attitudes toward patient safety: a cross-sectional study (訪問看護師の患者安全に対する態度尺度の開発：横断的研究)			
論文審査担当者			
主査	教授	森山 美知子	印
審査委員	教授	川崎 裕美	
審査委員	准教授	加古 まゆみ	
〔論文審査の結果の要旨〕			
<p>医療者が常駐しないことからインシデントが発生しやすい状況にある在宅療養の現場において，訪問看護師はリスクを認識し，療養者の安全を確保する役割を担う。そのため訪問看護師は，療養者の安全確保に対する態度を高める必要がある。本研究では，訪問看護師の患者安全に対する態度を測定する尺度を作成し，その信頼性と妥当性を検討した。</p> <p>厚生労働省の介護サービス情報公表システムを用いて無作為に抽出した訪問看護ステーションに勤務する看護師 2,208 名を対象に，無記名自記式アンケート調査を実施した。490 名から回答があり（回答率 22.2%），欠損値のない 421 名（有効回答率 19.0%）を分析対象とした。訪問看護師の患者安全の態度に関する項目は，研究者が行ったインタビュー調査の結果を基に作成した。訪問看護のエキスパート 10 名により内容妥当性を検証し，4 段階のリッカートスケールを用いた 35 項目のアイテムプールを作成した。分析は対象者を無作為に 2 群に割付け，Step 1（210 名）では項目分析と探索的因子分析（EFA）を，Step 2（211 名）では確認的因子分析（CFA）を行った。モデルの適合度は，Tucker-Lewis Index（TLI），比較適合指数（CFI）および二乗平均近似誤差（RMSEA）を使用した。信頼性は，各因子と尺度全体の Cronbach's <math>\alpha</math> 係数を調べた。基準関連妥当性は，「日本の病院女性看護師の職場安全風土」（Sakita, 2015）と「看護師の倫理的行動尺度改訂版」（大出，2019）を使用した。収束的妥当性は，合成信頼性（CR），平均分散抽出（AVE）により検討した。</p> <p>結果，調査対象者の平均年齢は 47.9 <math>\pm</math> 9.1 歳であり，Step 1 と Step 2 の対象者に差はなかった。項目分析では 18 項目に天井効果が観察された。床効果は見られなかった。項目間相関において強い相関（<math>r = 0.791</math>）を示す 1 項目，I-T 相関により <math>r \leq 0.3</math> 以下の項目 3 項目を除外した。</p> <p>EFA により訪問看護師の患者安全に対する態度尺度は，「患者安全に対する自己研鑽」7 項目，「インシデントの認識」4 項目，「インシデント経験に基づく対策」5 項目，「療養</p>			

者の生活を守る看護」3項目の4因子19項目で構成されていた。最終的に Kaiser-Meyer-Olkin (KMO) 検定 0.875, Bartlett の球面度検定 1790.254 ( $p < 0.001$ ) であった。4つの因子間の相関係数は  $r = 0.229 \sim 0.591$  で、弱から中程度の相関が得られた。CFA のモデル指標は  $\chi^2 = 305.155$ ,  $df = 146$ ,  $p < 0.001$ , TLI = 0.886, CFI = 0.902, RMSEA = 0.072 (90% 信頼区間 0.061 - 0.083) であった。態度尺度全体と「日本の病院女性看護師の職場安全風土」の間には  $r = 0.372$  の弱い相関が、「看護師の倫理的行動尺度改訂版」は  $r = 0.308 \sim 0.594$  (いずれも  $p < 0.001$ ) の相関がみられた。Cronbach's  $\alpha$  係数は尺度全体で 0.893, 各因子は 0.724  $\sim$  0.867 であった。収束的妥当性は、因子 1, 2, 4 は AVE が 0.5 以上であり、因子 3 は AVE = 0.37 であったが、 $CR > AVE$  で CR が 0.73 で許容可能であった。結果より、訪問看護師の患者安全に対する態度尺度 (4 因子 19 項目) の信頼性と妥当性が確認され、尺度項目は療養者の自宅で看護を実践する訪問看護の特徴が示されていた。

以上の結果から、本論文は訪問看護師の療養者の安全や事故防止に関する態度を評価する尺度を開発した研究として高く評価される。

よって審査委員会委員全員は、本論文が著者に博士 (看護学) の学位を授与するに十分な価値あるものと認めた。